

鷺羽山と倉敷五ヶ寺巡り

今、夢二の絵がブームとなっているが、江戸期、尻海に輩出した画家に柴田義薫がいます。義薫の足跡を中心に五月十三日、バス三台、約百三十名の人々と倉敷方面の寺を巡った。

まず県内でも有数の大寺院蓮台寺を訪れた。

瀬戸大橋の完成にあわせて大修理をほどこし、両まいり復活による地域の活性化をねらっている寺院である。ここには義薫の代表作がある。獅子の間と呼ばれる一面の襖に描かれた絵は県の重要文化財に指定されている。

普通なら拝観料があるが、義薫の菩提寺からの人達だからという事で無料にして下さった。

そのあと鷺羽山にのぼり、瀬戸大橋と瀬戸内の島々をながめた後、ふもとで食

四国霊場巡拝に参加して

高助 山本喜世子

念願だった四国霊場巡拝に参加して今年で二回目、午前五時すぎ、明けやらぬ戸外へ出る。ひんやりとした冷気が、白装束の身をつむ。

十月七日、高知県の霊場巡拝の朝である。総勢四十四名、元氣よく旅立つ。瀬戸大橋を渡る頃はすっかり夜も明け、往き交う船や漁船が数え切れない程目に飛び込んで来る。いつ見ても美しい瀬戸内海の風景である。豊浜のインターでお弁当を積み込み、バスは一路高知へとひた走る。立派な横断道の出来たお蔭で、八時頃にはもう南国道へ入る。沢山のピニールハウスが目につく。どのハウスも最初のお寺、第二十九番国分寺へ到着する。木立ちの中にひっそりとたたずまい、鄙びた感じのお寺であった。山門を入ると御住職自ら浄財の寄進を呼びかけておられた。大目寺のおまいりをすませると、室戸の最御崎寺へと向う。海岸線を東へ東へと走る。右手に見える海は太平洋だと思ふと、何か知らぬ感動を覚えた。遙か彼方の水平線は厚い雲が垂れていた。早目の昼食をバスの中で戴く。十一時頃に最御崎寺の駐車場へ到着。いろは坂の様な道を登って来ただけに、眼下に広がる景色は見なれた瀬戸内海とは違って雄大な風景である。風も強い。五分程バスから降りて山道を登るとお寺の仁王門が見えた。どっしりとした重厚な感じのお寺である。お大師様の修業された場所をテレビでは放映して居たが、わからな

事を取り、五流尊龍院をたずねた。御流神道の総本山であるが、明治以後神仏分離により熊野神社と分かれ、昔の面影は感じられなかった。続いて一等寺を訪れた。山の中腹にあるながめの良い寺で、名前の通り立派な寺であった。

このの便所一つで結構な家が軒立つた話である。ここにも義薫の物があつたが、多くは兄弟弟子の岡本豊彦のものであつた。

更に藤戸寺を訪れた。源平の古戦場として、又、藤戸まんじゅうが有名であるが、目ざとい人はバスを降りるなり、お寺よりもまんじゅう屋さんに直行した。お寺にお参りした人が店についていた頃には長い行列が出来た。群集心理か、我も私もとまんじゅうを買いたい。店の人もさぞ驚いた事であろう。途中で品切れとなつた事は残念であつた。最後に不洗観音寺を訪れたが、どんぐり、発展している様子をまざまざと感じさせる寺であつた。立地条件や歴史的な背景に恵まれた面もあるのだから、住職さんの人々の心をとらえる様な心配りが感じられる境内であつた。各寺院では住職さんからの色々なお接待もいただき、楽しい一日であつた。

歩かねばならなかつた。道端には時ならずアジサイの花が咲いて居て、心の和むのを覚える。又、大きな湿地があり、天然記念物のトンボ(名を失念)の生息地としての指定を受けた場所であつた。青龍寺では、立派な三重塔が修復され、開眼供養も間近かとのことであつた。青龍寺を過ぎると、次第に山へ登る道路であつた。どこ迄も続く山なみの道を足踏を目標としてバスは走る。雨はまだ止まない。お大師様の足跡を辿るのも、現代は交通機関が発達しているお蔭で随分楽に巡拝

描かれていた。心に残るお寺の一つだつた。一向に止まぬ雨に苛立ちを覚え、足踏の金剛福寺へと向う。道路も、足踏サニロードと呼ばれ椿のシンボルマークの付いた標識が目につく様になつた。高の付いた標識が目につく外に、濃霧が降り、立派な三重塔が修復され、開眼供養も間近かとのことであつた。青龍寺を過ぎると、次第に山へ登る道路であつた。どこ迄も続く山なみの道を足踏を目標としてバスは走る。雨はまだ止まない。お大師様の足跡を辿るのも、現代は交通機関が発達しているお蔭で随分楽に巡拝

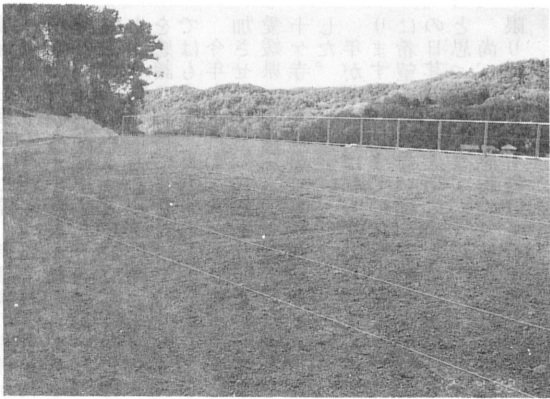


金剛福寺にて

新墓地造成

旧墓地が一杯になり、檀家の方々から新墓地造成の要望が出ておりましたが、昨年八月より川部建設の手により造成が進められ、昨年末に完成致しました。菩提寺を間近に望んだ見晴らしの良い場所であり、車で墓地内までお参り出来る便利な墓地です。ご必要の方は、氣に入つた場所をお早めにお求め下さい。

又、旧墓地の一面に永代供養塔を建立しております。これはまつり、手のない人等の為に、寺がかわつて、永代供養料をいただいております。永代供養料をいらの方もご相談下さい。



俳句三首

問口 山田 栄

南無大師妻の遺影と秋遍路
秋遍路仁王黙視や赤き顔
鐘渡る遠き刈田や秋の暮

住職 僧正に

大僧那 若松隆英
補權少僧正
高野山真宗本願寺
平成四年八月五日
大僧正竹内崇峯

昨年八月五日付をもって、大僧都から権少僧正への昇格の辞令を本山からいただきました。尚、名譽住職正隆は中僧正です。

お砂踏み中止

毎年一月十五日に行っております、お砂踏み並びに大護摩供養は、客殿修繕のため中止いたします。

